

令和 6 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	4 4	学校名	茨城県立波崎柳川高等学校						課程	全日制		学校長名		岩瀬 美江				
教頭名	篠原 理												事務（室）長名		杉山 哲朗			
教職員数	教諭	1 4	養護教諭	1	常勤講師	7	非常勤講師	1	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	3	技術職員等	4	計	3 4	
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数					
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	普通科		52	40	24	28	26	15			102	83	7					

2 目指す学校像

生徒一人ひとりの成長を促し、自己実現達成のための教育を行う学校（夢を実現させる・取り組みを結実させる・地域とともに歩む）

3 三つの方針(スクール・ポリシー)

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ○自己成長を図り、自己実現にむけて意欲的に学校生活を送り、主体性や社会性を身につけた人財。 ○個性や多様性を尊重し、相互に認め合える、心豊かな人財。 ○学校で培った資質・能力や共感力を生かして地域社会に貢献できる人財。
「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ○主体的・対話的で学びを深める授業を通し、対話力・発信力の向上を図る。 ○生徒の学習ニーズへの対応と進路希望実現のための支援活動を展開する。 ○学校が地域や社会と連携・協働して生徒の成長を支え、地域に必要とされる生徒の育成を図る。
「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ○学校や社会の一員としての自覚を持ち、規範を守り、行動できる生徒。 ○自分の進路実現のために、前向きにチャレンジできる生徒。 ○部活動や校内外の諸活動に仲間と協働して、意欲的に取り組む生徒。

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項 目	現状分析	課 題
進路指導	R 5 年度末の進路結果は、進学 61%、就職 31%、未定 7%であった。R 4 年度は進学 49%、就職 49%、未定 2%であり、進学者（特に四年制大学・短期大学進学者）が増加し就職者が減少した一方で、未定者はやや増加した。本校の生徒は学習習慣が定着しておらず、学習状況リサーチでは3年生の多くの生徒が「全く学習しない」という状況で、学年が上がるに従い、学習時間が減少する傾向にある。反面、「成績を伸ばしたい」「学習の方法がわからず悩む」と回答する生徒が約半数いる。他にも「進路について悩む」生徒が各学年3割程度いることもわかっている。これらを踏まえ、各学年や各教科において組織的な対応が求められる。	学習習慣の定着と学力の向上については、意図的・計画的に仕掛ける必要があり、生徒・保護者・職員が指導体制に期待できるように働きかける必要がある。特に I C T の効果的な活用によって職員の負担を増やさずに学習活動の活性化を図ることが重要である。授業改善としては Classi やタブレットの利用などを推し進めつつも、知識定着のために振り返りなどの地道な指導にも力を入れていきたい。また、「生徒の実態に合ったプログラム」を最適に行いながらも、学力向上と進路実現を達成させる必要がある。学年と教科・校務分掌で連携し、生徒一人一人に「自己存在感」「有能感」「達成感」が得られる体制づくりが急務である。
生徒指導	R 5 年度の事故報告件数は 22 件、交通事故が 2 件であり、R 4 年度より大幅に減少した。対教師暴力は 0 件となり、生徒と教員が良好な関係を築けていることがわかる。しかしながら、いじめが 1 件、友人関係による相談件数も 103 件と、人間関係づくりに課題が残る状態である。遅刻や欠席が多い生徒も多数いるため、継続的な人間関係づくりや登校支援を実施する必要があることがわかる。基本的生活習慣の指導を継続的に実施し、生徒の心情に寄り添った指導を組織で行っていけるようにする。	基本的生活習慣の確立を目指し、遅刻・欠席を減らすこと、正しい服装での登下校や学校生活を送ること、登下校時における交通事故防止を含めた交通ルールを順守することは継続指導が必要である。また、学校外で問題行動等が発生していることから、校外巡視を強化するとともに地域・保護者・学校が連携し組織的な生徒指導の充実・徹底を図り、事故の未然防止に努める必要がある。また、意図的・計画的な指導により、自発的に健康・安全管理、規範意識の向上に取り組むことのできる人間力を育てる。
特別活動	R 5 年度は特別委員会として行事实行委員を組織し、球技大会、体育祭などの運営を、生徒会生徒と協力して行うことで、主体的な学校行事運営とすることができた。また、ボランティア活動を全校生徒に募集をかけ、意欲的に参加する生徒が増えるなど、地域と一体となった活動を実施することができた。生徒会生徒は、12 月から 1 月にかけて地域のラジオ放送会社と協力し、ラジオ番組の収録を行うなど、広報的な活動を実施することもできた。各部活動においても、部員数が少ない中でも、練習の内容を工夫し、活動の質を高める努力をするなど、自主的・自発的な活動とすることができた。	生徒会活動を軸として、各種委員会を機能させながら学校行事や部活動を質の高い教育活動とし、地域の中学生や保護者などに、本校の特別活動の良さを PR する活動が必要である。PTA や後援会など、地元の社会人の力を借りながら、よりよい特別活動の実施ができるよう、綿密な計画を立てる必要性を感じる。しかしながら現状は、教職員の数が不足し、日常業務に圧迫され、計画を立てる時間が足りていない。より生徒が主体性をもち、各種活動に自ら参加していけるよう、組織的に支援していくことが必要である。
働き方改革	勤怠管理システムの使用によって、勤務時間、超過勤務など時間管理の意識が高まり、在校時間の減少傾向が続いている。	部活動顧問や学級担任が超過勤務になりやすい。顧問間や副担任との業務の分担を図る。

別紙様式 1 (高)

5 中期的目標

1 全生徒の進路実現を目指した授業の実践（改善と質の向上）	2 社会的に自立するための実行力の育成
3 地域社会や関係諸機関との連携強化と良好な教育環境の構築	4 業務の改善や全職員の連携など効率的な働き方

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学習指導	① 基礎的・基本的な知識の定着を目指した生徒の学習習慣の確立 ② 主体的で対話的な学びができる学習態度と異なる価値をもつ他者と協働できる学習態度の涵養
授業改善	③ 生徒による授業評価において授業満足度 80%以上（KPI）となるような授業の工夫
特別活動・部活動	④ 主体性の育成を意識した学校行事や生徒会活動、常任委員会活動の実施 ⑤ キャリアパスポートと学校行事や教育活動との積極的かつ効果的な紐付け ⑥ 健康で安全な生涯を意識させた教育活動や部活動の実施
生徒指導	⑦ 時間遵守・服装指導をきめ細かく行い、基本的生活習慣を確立する ⑧ 校内外において交通安全指導を強化し、命の尊さや交通マナーについて理解させ、生徒の規範意識を高める ⑨ SNSの使用に関するマナーの向上
進路指導	⑩ キャリア教育の充実・ICT活用の推進・学習の振り返りの強化・課題設定による学習の習慣付け ⑪ ゼミや資格指導の体制改善 ⑫ 進路相談体制の改善 ⑬ 企業連携プログラム・高大連携プログラムの推進
地域・関連機関との連携	⑭ 関係諸機関との連携事業の実践（神栖3 ココシップ事業、「PTA」「同窓会」との連携、高大連携事業等） ⑮ 地域とともに歩む事業の実践（柳川小、波崎三中、神栖三中との交流、地元企業との連携事業） ⑯ 学校説明会の充実と教育活動の積極的な発信
働き方改革	⑰ 全職員の連携と業務の効率化 ⑱ 「ワーク・ライフ・バランス」の意識の浸透